

第5学年A組 学級活動(1) 指導案

特別活動研究室

1 議題 「学校を明るくするために、自分たちができる活動を決めよう」

2 議題選定までの経過

- 10月中旬の学級活動(2)「高学年としての自分の役割」において、児童は学校を明るくするために学校全体を見据え、自主的に活動していくことを確認し、高学年として自分の果たすべき役割を自己決定した。その内容には、卒業生が行ってきた清掃活動やあいさつ運動を、自分達も自主的に行っていきたいというものが見られた。

その後、議題ボックスの中にも「オアシス運動に取り組もう」「校門であいさつ運動をしよう」「学校をきれいにしよう」などの議題が多く入れられ、計画委員会で議題を整理し、本議題「学校を明るくするために、自分たちができる活動を決めよう」をみんなで決めた。

- 本議題の「学校を明るくするために、自分たちができる活動を決めよう」では、学校づくりへの参画を意識させることをねらいとした。児童の生活体験や興味・関心に基づいて学校内の生活環境を見つめ直し、自分たちの生活をよりよく明るいものにさせたいと考える。

学校を明るくするために自分の考えをもち、自分たちにできる活動をみんなで考えたり、自分にとって価値あるものを選択したりすることを通して、児童に「意思決定能力」の「選択能力」と「課題解決能力」をはぐくませたい。

- 本学級は「協力して 何でも言い合える 元気なクラス」を目指して活動をしている。学級会でもこの目標の達成を意識した発言をする児童がおり、みんなでアイデアを出し合い、自分もよくみんなもよい集団決定を目指している。

また、計画委員の順番が早く回ってくることを望んでいる児童もおり、学級会を楽しみにしている様子が見える。本議題においてはボランティア活動やこれまでの卒業生の活動に興味を持つ児童が多く見られる。

3 指導にあたって

① 事前

学級活動(2)「高学年としての自分の役割」を行い、学校全体を見据えた活動も高学年としての役割の一つであることを確認し、高学年として自分の果たすべき役割を自己決定させる。校内に残された卒業生の活動の足跡にも着目させ、議題募集期間を設ける。集まった議題をもとに計画委員会で議題の選定を行い、学級全員で議題を決定させる。議題決定後、校内調査委員を8名選出し、学校に必要な活動の調査期間を1週間設ける。

② 本時

校内調査委員の報告をもとに、「学校全体が明るくなるもの」(課題性)、「3月まで継続できるもの」(現実性)の2つの観点をもとに話し合わせ、活動の意義や実現可能性に焦点を当てて話し合わせるようにする。活動決定後、活動ごとのグループに分かれて活動内容や役割分担について詳しく話し合わせる。

③ 事後

活動実施計画を作成させ、自分の役割に責任をもたせる。また、活動の振り返りを定期的

に行い、自分たちがどれだけ計画通りに活動を進めることができたか、自分の役割をしっかりと果たすことができたかを話し合わせる。この振り返りを通して、自分たちの活動の成果を実感したり、より明るい学校を目指して新たな課題を見つけたりできるようにする。

4 目標

- 自らの学校生活をみつめ、よりよい生活を目指す意欲を持つことができる。
- 自己を生かすために自分にとって価値あるものを選択・決定することができる。
- よりよい学校生活にするために継続して活動することができる。
- 自ら進んで活動することの成就感を感じ、そのよさに気付くことができる。

5 指導計画

(1) 事前の活動

児童の活動	教師の指導と援助	日時
1 学級活動(2)「高学年としての自分の役割」	○ 学校内に残された卒業生の活動の足あとに気づけるようにする。	10月13日 5校時
2 第1回計画委員会で、集まった議題を選定し、議題提案を行う。	○ 議題を選定した理由を全員に明確に伝えるよう助言する。また、その他の議題の処理についてもくわしく説明させる。	10月18日 昼休み 帰りの会
3 各班から1名ずつ「校内調査委員」を選出し、自分たちでできそうな活動を調査する。	○ 調査委員としてふさわしい姿を考えさせるようにする。 ○ 個人でも校内を見わたし、自分たちができそうな活動を見つけられるように助言する。	10月19日～ 中休み～
4 第2回計画委員会で、話し合いの計画を立てる。	○ 話し合いがこう着した時には「話し合いのめあて」にもどることを確認する。	10月21日
5 学級会ノートに自分の考えを書き、学級会に備える。	○ なぜそう考えたのかという理由やこだわりを充分書くように助言する。	10月24日 朝の会
6 計画委員会で学級会の準備をする。	○ 学級会の進め方を確認する。	10月25日～

(2) 本時の活動 10月27日(木) 5校時 5年A組教室

ア ねらい

- 5年生としての意識を持ち、自分たちが続けていく活動を意欲的に考えることができる。
- 自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うことができる。

イ 指導計画

話合いの順序	指導上の留意点
1 はじめの言葉	○ 議題の内容について再確認することで、児童の話合いに対する意欲を高める。
2 司会グループの紹介	○ 自分の役割のめあてを言いながら自己紹介し、「責任をまっとうしよう」という気持ちを高めさせる。
3 議題の確認と提案理由の説明、話合いのめあての確認	○ 高学年として活動することの意義を確認し、話し合う意欲を高めさせる。
4 話合い 柱 1 自分たちができそうなボランティア活動の提案 柱 2 自分たちが続けられる活動を選ぶ	○ 話合いがこう着したり、ずれたりした時には話合いのめあてにもどるようにする。 ○ 話合いの観点を明確にし、よりよい活動を考えやすいようにする。
5 先生から	○ 計画委員や提案者への賞賛をする。
6 終わりの言葉	○ 元気な声と拍手で終わらせる。

(3) 事後の活動

児童の活動	教師の指導と援助	日時
1 活動実施計画をもとに実践する。	○ 意欲が持続するように適宜賞賛する。 ○ 役割を意識して、責任をもって活動できているか声かけを行う。 ○ 熱心に取り組み、達成感を味わえるように励まし、援助する。	11月1日～ 随時
3 活動をふりかえり今後の活動について話し合う。	○ 反省点を生かしてさらに充実した活動を考える。	適宜

6 評価

- 自ら行動することで生活をよりよくしていこうという意欲を持つことができたか。(関、意、態)
- 自らの意思と責任でみんなと続けていく活動を選択・決定することができたか。(思、判)
- 積極的に課題解決に臨み、継続して活動することができたか。(技、表)
- 自らの意思と責任で活動することの大切さに気付くことができたか。(知、理)